

あしたの畑2025:秋期公開 (2025年11月10日～24日)

地球・文化・人を結ぶ2週間— SEA BRIDGES国内初展示と「宮ティーハウス」始動

急速な高齢化や産業構造の変化により、京都・丹後地域では、かつて人々の手によって守られてきた自然や文化の風景が失われつつあります。

NPO法人TOMORROW(代表:徳田佳世)が運営する「あしたの畑」は、そうした課題に対し、「手仕事・アート・食」を媒介として、地球と文化、そして人との関係を再生することを目的とする、持続的な文化実験の場です。5年目を迎える今年度は、「リジェネラティブ(再生的)な暮らし」そして、「アートが社会で循環すること」をテーマに掲げ、世代や国境、分野を越えた協働を通じて、未来の暮らしの原型を探ります。

SEA BRIDGES — 海を越えて交わる工芸の対話

会場:間人レジデンス

秋期公開では、韓国・ソウルを拠点とするONJIUM(オンジウム)とあしたの畑による共同企画展『SEA BRIDGES』から、日韓の職人が共に制作した二つの屏風作品を日本で初公開します。この企画は、朝鮮半島と丹後の歴史的なつながりを手がかりに、分断ではなく「連なり」として文化を再考する試みです。唐紙師・嘉戸浩、版木師・金沢健幸、表具師・藤田幸生による「四曲屏風」は、海をイメージした唐紙が裏面を飾り、もう一方の「六曲小屏風」は、朝鮮時代の文様「四君子」をOnjium Clothing Studioが現代空間に再解釈した作品です。両作品は、国境を越えて受け継がれる技と感性の対話を象徴するものとして展示されます。



ONJIUM+TOMORROW:SEA BRIDGES

[100%、地球] 宮ティーハウス— 土とともに生きる建築を、未来へ 会場:宮のあしたの畑

もう一つの柱となるのが、地球環境と人の営みをつなぎ直す建築実験「宮ティーハウス」の始動です。建築家アンナ・ヘリンガー氏(ドイツ)と陶芸作家マーティン・ローチ氏(オーストリア)、京都の左官職人・中須左官店が協働し、竹野神社が鎮座する宮地区において、地域の土と伝統技法による半屋外のアートインスタレーションを制作します。2025年10月から約2か月にわたるワークショップやレクチャーでは、国内外の参加者が京丹後の土に触れ、地球に還る建築＝版築、環境と共生する文化の再構築を学びます。ティーハウスの周囲には、SEA BRIDGESの一環として、来年度にOnjium Food Studioとの共同企画によるお茶の庭が広がります。この庭では、自然の恵をお茶として味わうことのできる、宮の地に自生する植物が彩りを添えます。

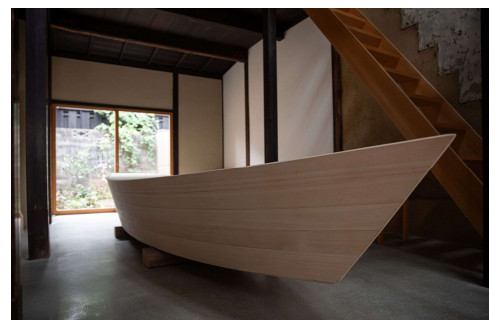


アンナ・ヘリンガー「宮ティーハウス(模型)」

土と植物と手— 大地に根ざす新たな創造

会場:SEI TAIZA

元織物工場を改修したギャラリーSEI TAIZAでは、土と植物と手をテーマとしたインスタレーションを公開します。丹後と大陸のつながりを探究してきた美術家・AAWAAによる映像作品「丹」、未知なる地への橋渡しであった舟を着想源とした木工作家・中川周士による作品を京丹後にて初公開します。ギャラリーの周囲では、今後のプログラムにつながる畑が耕し始められ、土・植物・人の手が織りなす循環の風景を体験する場となります。



中川周士「舟」

「あしたの畑 2025:秋期公開」開催概要

名称	あしたの畑2025:秋期公開
会期	2025年11月10日(月)～11月24日(月・祝)の土・日・月・祝日 *火～金曜休み 11:00-17:00 最終入場 16:00
会場	間人スタジオ、SEI TAIZA、間人レジデンス、宮のあしたの畑
鑑賞料	1,500円(全会場共通) 1時間ごとのツアー制／要事前申し込み 〈宮のあしたの畑〉の作品は常時自由鑑賞、無料
アクセス	京都市内から車で約2時間
主催	NPO法人TOMORROW、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
委託	令和7年度日本博2.0事業(委託型)
公式サイト	https://tomorrow-jp.org/program/2025autumn/
チケット購入	https://checkout.square.site/merchant/ML2NV20MQCFA4/checkout/VE7UKTKBNAP563WYMETMS6RV

JAPAN
CULTURAL
EXPO 2025



CREATORS いとをかし(和紙職人)、荻原美里(画家)、嘉戸浩(唐紙作家)、佐藤聡(ガラス作家)、祖父江慎(グラフィックデザイナー)、中川周士(木工作家)、中須左官店(左官)、藤田幸生(表具師)、AAWAA(現代美術家)、Anna Heringer(建築家)、Martin Rauch(陶芸家)、Sangho Noh(現代美術家)、Teresita Fernández(現代美術家)

京都から広がる「地球と生きる文化」

11月1日より、大垣書店 烏丸三条店にて「あしたの畑2025」メインビジュアルを掲示



11月1日より、大垣書店 烏丸三条店のショーウィンドウにて、「あしたの畑2025」のメインビジュアルを掲示します。画家・荻原美里が間人の風景を水彩で描き、ブックデザイナー祖父江慎(Cozfish)がデザインを手がけた本作は、歴史と共に人と自然が共に息づく間人の風景を象徴的に紹介します。

会場:大垣書店 烏丸三条店
(京都市中京区御倉町烏丸通三条上ル 85-1 KDX烏丸ビル 1階)

期間:2025年11月1日～11月30日

NPO法人 TOMORROW / あしたの畑



NPO法人TOMORROWは、芸術文化活動を核とする非営利団体。「感動すること」を最上位の価値として定め、芸術文化活動を通し、豊かな心を育み、平和な国際社会を築く一因となることを目的とします。2020年より京都北部の京丹後市間人地区にて開始した活動「あしたの畑」は、国内外で活躍するアート(建築・工芸などの表現を含む)と食のプロフェッショナルたちが、分野を超え、都市部では得られない地域の立場から、未来に引き継ぎたい日本の美しい景色を文化芸術的アプローチによって創造していくことを目指します。

Website <https://tomorrow-jp.org/tomorrow/>
Instagram [@tomorrow_field](https://www.instagram.com/tomorrow_field)